



聖書箇所:ピリピ人への手紙4章21-23節
『主を喜ぶことは私たちの力-恵みから恵みへ-』

【1】 キリスト・イエスにある聖徒

- ・パウロとピリピ教会の関係
- ・ピリピ教会における課題とパウロの祈り
—主にあって同じ思いになるように(ピリ 2:2; 4:2)。
- ・「キリスト・イエスにある聖徒の一人ひとり」(ピリ 4:21)
—ローマ人への手紙のように個人名の記載はない
—集団でなく、聖徒一人ひとりへのあいさつ
 - ▷一人ひとりがキリストの十字架の血によって罪赦された者たち
 - ▷キリストの愛に留まる者たちは互いに愛し合う(ヨハネ15:12)

【2】 福音の広がり

- ・「あなた方によろしく言っています」
私(パウロ)と一緒にいる兄弟たち；テモテとおそらくルカ(使徒20:1-6; 27:1)
- ・「…カエサル之家に属する人たち」ローマ帝国に雇われている使用人など
—囚われの身となったことで、彼らにも福音を伝えた(参照ピリ 1:13)
—ローマの植民都市のピリピの教会への励ましとなった

【3】 恵みから恵みへ

- ・ピリピ人への手紙は「恵み(カス)」(ピリ 1:2)から始まり「恵み」(4:23)で終わる
- ・パウロ書簡に登場する「恵み(カス)」
 - 福音の中心
 - 全く価なしの神の賜物であり信仰によってのみ受け取ることができる賜物(ローマ3:24; エペソ2:8; 3:7)。
- ・喜びのわけ
—神からの恵みの賜物を信仰によって受け入れていた

▷2024年の主題目標『主を喜ぶことは私たちの力』でした。みことばは「いつも主にあって喜びなさい」(ピリ 4:4)と語りかけています。それは、神の恵みは変わることなく今日も私たちとともにあるからです。

「主イエス・キリストの恵みが、あなたがたの霊とともにありますように。」(4:23)